

第8回世界水フォーラム

ブラジル大会報告会

3月18日～23日の6日間、ブラジルで開催された第8回世界水フォーラムの報告会が、3月27日に遠賀川水辺館で開催されました。世界水フォーラムは、3年に一度、世界中の閣僚が集まって、水に関する議論等を行う国際会議です。そのフォーラムに、遠賀川水辺館の「遠賀川世界子ども水フォーラム」で活動している4人が参加し、報告を行いました。

報告者は琉球大学生の高田賢人さん(21)、九州工業大学生の有吉巧さん(20)、北九州工業高等専門学校生の熊谷拓時さん(17)、研究開発法人土木研究所の坂本貴啓さん(30)。フォーラムでは、汚れていた遠賀川が住民や行政の努力できれいになった経緯や、遠賀川水辺館での活動等について英語で発表。中学生のときからこの活動に参加している熊谷さんは「自分たちの発表が他国の人に共感してもらえたことは励みになった。英語力をつけて、次のセネガル大会にも参加したい」と感想を語りました。

参加メンバーで考えた「遠賀川ユース宣言」も発表



福地校区公民館が

養護老人ホームへお米を寄贈

4月5日、福地校区公民館・同運営審議委員有志一同が、養護老人ホーム芳寿園にお米を寄贈しました。寄贈されたのは「福岡県産夢つくし」600キログラム(30キログラム×20袋)です。公民館が実施した「いきいきフェスタ」での募金2万2412円と、有志からの寄付を購入資金に充て、福地の里で収穫された米を、福地校区に一番近い養護老人ホームの芳寿園に寄贈することになりました。

福地校区公民館の安田幸生館長は「このお米を食べて、もりもり元気をつけてください。米代の負担が減った分をおかずに戻してください」と挨拶し、入所者代表に目録を渡しました。芳寿園の渡辺普紀施設長は「600キログラムという大量の米を寄贈していただき、職員、入所者ともに大変喜んでいきます」と感謝していました。

おいしいお米でいつまでも健康に



写真家鋤田正義さんが

ふるさと直方で写真展開催

4月3日～5月20日まで、直方谷尾美術館で鋤田正義写真展「ただいま。」が開催されています。初日となる3日には鋤田さんも来館。オープニングイベントの日若踊りを楽しみました。

写真家鋤田正義の原点となったのが、高校生のときに撮った「母」という作品。自宅の縁側で、日若踊りの衣装に身を包んだ母の姿を、母に買ったもらったカメラでとらえた一枚です。この一枚には、苦労していた母の姿や当時の思い出が詰まっています。「この作品を超える写真は撮れない」と鋤田さんは話します。

この写真展では、デビッド・ボウイや沢田研二など豪華な顔ぶれの音楽家や芸能人ももちろん、十代の頃に直方で撮った写真も数多く展示されていて、直方が生んだ世界的写真家の歩みが存分に堪能できる貴重な空間となっています。



写真家の血が騒ぐ



なぜルールを守るのか

中学生のための「法教育」講演会

3月19日、直方第一中学校の1年生を対象に、市長による「中学生のための『法教育』講演会」を開催しました。小・中学生の頃から様々な問題について考え、解決する力を身につけてもらうことを目的に実施しました。市長は、難しいと思われがちな法教育を「なぜ信号は守らないといけないのか」「なぜ学校の給食当番はあるのか」等、中学生に身近な題材で講演。生徒からは「守るのは親に教わったから」「給食当番がなかったら、ご飯が食べられない」といった声が上がりました。最後に市長は「今日覚えてほしいのは、ルールは約束だということ。だから守るのです。また、ルールなら何でもありなのか、ルール違反を犯したらどうするのか等、考える力を養ってほしい」と語りました。

講演を聴いた村津結乃さん(13)は「最初は法教育って何だろうと思っていましたが、ルールは約束ということなどを知って良かった。次回も楽しみにしています」と話しました。

考える力を養おう



第17回全国小学生

ソフトテニス大会出場報告

直方ジュニアソフトテニスクラブ所属の谷結真さん(新入小4年・10)と佐藤璃奈さん(上頓野小5年・11)が、第17回全国小学生ソフトテニス大会出場報告に訪れました。谷さんは、大牟田リトル所属の野田暖仁さん、佐藤さんは、からすてんぐ所属の池部桜子さんとペアを組み、それぞれ4年生(ダブルス)以下の部男子で準優勝、5年生(ダブルス)の部女子で3位となりました。二人ともペアとなる相手が別チームに所属しているため、一緒に練習する時間が十分に取れませんでした。が、県予選会で持てる力を発揮し、それぞれ全国大会出場を勝ち取りました。

全国大会は3月29日～31日の3日間、千葉県で開催。谷さんは「チャンスボールを打って得点を決めたらすつきりする」、佐藤さんは「試合に勝ったときに嬉しい」とテニスの魅力を語りました。市長は「日頃の練習と強い意志があれば勝てる。次は優勝です」と激励しました。

強い志で目指せ優勝



全国JOCジュニアオリンピックカップ

春季水泳競技大会出場

3月22日、全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会(3月27日～30日、東京辰巳国際水泳場開催)出場が決定した、直方スイミングスクール野上の選手たちが市長への報告のため市庁舎を訪れました。

報告者は、小山陽翔さん(北九州市立千代中2年・14)、小野颯太郎さん(直方第二中1年・13)、門口陽哉さん(赤池中学校2年・14)、上田剛士さん(直方第三中学校2年・14)の4人で、4×100メートルリレーに出場します。大会出場のためには設定された標準タイムを突破しなければならず、今回は標準タイムを1秒近く上回り、2年ぶりの出場を決めました。同スクールの坂巻昭博さんは「先輩スイマーとしての自覚も芽生え、後輩たちを引っ張る姿勢や自主性も備わってきた。それが今回の出場につながったと思う」と話しました。市長は「全国大会出場は素晴らしい。しっかりと頑張ってきてください」と激励。4人は健闘を誓って市長と握手を交わしました。

左から上田さん、小野さん、小山さん、門口さん

